

Hello

2000

5

No.214

Friends

KANAGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ1階 ☎045-896-2626

2000年度の神奈川県国際交流協会(KIA)

2000年4月～2001年3月

今年度は、重点事業として、NGOとの情報共有のしくみづくりを行うと同時に、インターネットのホームページの充実を図り、「情報・相談センター」の拡充を図ります。

桜の花の咲くころ

英会話講座・春期開講

国際交流・協力のコミュニケーションの基礎となる英会話を学びます。神奈川県と友好提携を結ぶ米国・メリーランド州からの招聘講師が担当します。

日本語講座・春期開講

かながわ民際協力基金・春期申請受付
国際協力を行うNGOを支援します。「助成申請ガイド」も開催。

(4月～5月末申請受付)

かながわ民際協力基金・助成団体活動報告会

青葉の茂るころ

ことばと文化セミナー・前期開講

アジアや中南米などの学ぶ機会の少ないことばと、その文化を学びます。

前期は、ことばの講座「中南米のスペイン語」と文化の講座「かながわの中のラテンアメリカ」を開催します。(詳しくは4ページ)

ひまわりの咲くころ

メリーランド州訪問団の受入れ

神奈川県と友好提携を結ぶ米国・メリーランド州の訪問団を受け入れ、今後の共同事業のテーマ等を検討します。

人材育成セミナー「イスコレかながわ」

今年は、映像メディアを利用したワークショップなどを行う予定です。

全国海外子女教育国際理解教育研究大会の開催

もみじが赤らむころ

国際交流・協力ポスター作文コンテスト

優秀作品は日本国連協会主催の全国大会へ出品します。作品応募は9月上旬が締切です。12月中旬にあーすぶらざで表彰式と作品展示会を開催します。

英会話講座・秋期開講

この秋から新しい招聘講師が講座を担当します。

日本語講座・秋期開講

ことばと文化セミナー・後期開講

後期は、ことばの講座「インドネシア語」と文化の講座「インドネシアの社会と文化」の予定です。

かながわ民際協力基金・秋期申請受付
(10月～11月末申請受付)

地球市民フォーラムの開催

地球市民かながわプラザと共同で開催
草の根国際協力応援バザーの開催

パートナーズ・フォーラムの開催

NGOとの情報交換の場として、フォーラムを開催します。

国連シンポジウムの開催

多くの人が国連の活動を知る・考える機会として、地球市民かながわプラザと共同で開催します。

神奈川県国際交流協会・会員のつどい

梅の花が咲くころ

人材育成地域フォーラムの開催

地域を基盤に活動する県内の団体と共同で、国際協力・多文化共生などの課題解決に向けたフォーラムを開催します。

ピースメッセンジャーかながわ派遣

オーストラリアの多文化社会を学ぶスタディツアーを実施します。

外国籍住民の現状を知るビデオ「わたしのこと(仮題)」の制作

地域に暮らす外国籍住民の「声」を発信します。

1年を通じて

インターネット事業

NGOデータ掲載をめざして、アンケート調査を行いますので、ご協力お願いします。イベント情報の充実のほか、インターネットを通して各種手続きができるよう工夫していきます。

外国籍住民生活実態調査

昨年度のアンケート調査の結果を受けて、ヒアリング調査を行います。

NGOかながわ国際協力会議(事務局)

NGOと神奈川県のパートナーシップのための定期的な会議。NGOの意見が県政へ反映するように知事への提言を行います。協会はこの会議の事務局をつとめています。会議は、傍聴できます。

神奈川県通訳バンクの運営

外国籍住民が暮らしやすい地域づくりのために、市町村単位で登録されている通訳ボランティアを他地域に派遣する事業。通訳ボランティア希望の方は、まず市町村にお問い合わせを。

県内国際交流協会連絡協議会の開催

国際理解を深めるつどい開催支援事業

平和・開発・人権・環境など、地球的課題の解決に向けて、国連協会各地域組織が行う事業に対する支援を行っています。

情報提供・相談事業

国際活動支援の場としてあーすぶらざ2階の情報フォーラムと映像ライブラリーを運営しています。

また、情報提供のために「Hello Friends」「サラダボウル」(ともに隔月)、「地球の風」「国連かながわ」(ともに年1回)などの情報紙を発行しています。

ボランティア活動、国際理解教育に関することなどいつでもお気軽にご相談ください。神奈川県国際研修センター(横浜市旭区)の運営

神奈川県が開発途上国から受け入れる技術研修員の日本語研修、生活オリエンテーション、課外研修、地域との交流事業、宿泊・研修施設の運営などを行います。留学生の長期宿泊施設でもあります。

国際学生会館(横浜市旭区、相模原市)の運営

県内在住・在学の私費留学生の長期宿泊施設。地域の国際交流事業なども実施します。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

かながわ民際協力基金

フィリピンのセブ島に歯科衛生士を派遣し、小学生の虫歯予防を進める活動などへ助成

かながわ民際協力基金から、1999年度下半期分として、次の2つの事業に対する助成が決まりました。

PTA主体の地域住民参加によるブサイ小学校の口腔衛生支援プロジェクト

団体 オーラル・ハイジニスト神奈川
(代表：佐々木初子)

区分 海外協力事業

助成額 1,500,000円



ブサイ小学校で虫歯予防の紙芝居

フィリピンでは、ここ数年、所得の伸びとともに砂糖の消費量も増え、子どもの虫歯が目立って増えてきています。

県内の歯科衛生士さんたちが中心となって活動しているNGO、オーラル・ハイジニスト神奈川のメンバーが、フィリピン・セブ島のブサイ小学校と関わりを持ったのは

5年前。セブ島各地の学校で虫歯の調査を行ったところ、低所得者層の居住地区に位置するこの小学校の子どもたちの歯の状態が、特に悪いことが分かりました。所得の低い人々にとって虫歯は、治療にお金がかかるだけでなく、十分な栄養が摂取できないなど、健康を維持する上で、将来にわたって大きな障害となることが考えられます。



紙芝居のお話に、思わず笑いが

オーラル・ハイジニスト神奈川では、今年7月から歯科衛生士1名を現地に長期派遣し、地元の人々の理解と協力を得ながら、この学校に通う約700人の子どもたちの虫歯予防を進めると同時に、より現地の生活習

慣に合った口腔衛生のあり方を探っています。

多文化・多言語混成団地におけるコミュニティ形成事業

団体 横内プロジェクト
(代表：新原道信)

区分 国内協力事業

助成額 1,045,000円

横内プロジェクトは、インドシナ3国出身者をはじめとする外国籍の人々が多く暮らす平塚市の横内団地において、子ども教室・生活相談・定期的なミーティング・イベントの開催などの活動を続けているグループです。日本語教師・民生委員・学校の教員など、さまざまな立場の地域住民が参加・協力し、地道な活動を続ける中から、新しいコミュニティづくりの担い手を育て、多文化共生を実現しようという取り組みを、「民際協力基金」が支援することになりました。

HUMAN VOICE

災害時に外国人に情報を伝える

～2つの震災から見たこと～

日比野純一さん

(神戸アジアタウン推進協議会運営委員)

阪神・淡路大震災でNGO外国人救援ネット、被災ベトナム人救援連絡会のメンバーとして震災救援活動に従事。神戸市長

田区の多言語コミュニティ放送局「FMわいわい」の設立に参画したほか、コンピュータを利用した「災害多言語情報発信システム」の開発も行った。



神戸アジアタウン推進協議会 TEL:078-737-5544
URL: <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/asiatown/>

「国際都市」神戸

阪神・淡路大震災が発生した時、私は東京にいたんですが、たまたま3日前に仕事を退職してしまっていて、救援のボランティアとして被災地に駆けつけました。東京の人間からすると、神戸は「国際都市」と言われ、外国人に対するサポートは充実しているんだろうと漠然と考えながら行ったわけなんですけど、その期待はもろくも崩れ去りました。

神戸へ新しく渡ってきた日本語がわからない人たち、ブラジル人のポルトガル語とか、ベトナム人のベトナム語とか、中国からの帰

国者への中国語の保障などが無い「まち」でした。そういう状況のもとで、神戸の外国人の人たちは被災したわけです。当然、被災した外国人には、情報が伝わりませんでした。

震災の翌日だったと思うんですが、神戸の東灘の大きなガスタックにひびがはいたという情報が流れました。東灘というところは、食品工場がたくさんあって、ブラジル人とかペルー人が、たくさん居住しているんです。避難勧告が出たので、殆どの住民は避難したんですけど、日本語のわからない人たちには情報が入らなかった。幸いにもガスタックは爆発せずに、大事に至らなかったんですけども。

それから、災害の直後に救援に駆けつけた自衛隊を見て、「震災という非常事態に乗じて、軍事クーデターが起こったんじゃないかと真剣に心配した」という話を何人も外国人から別々に聞きました。自衛隊は、一生懸命に被災地の復興のために、力を貸してくれたわけですけど、日本の日常の中で、カーキ色の軍服を着た自衛隊員を見ることってあまりないですからね。

情報の格差に加えて、国籍や在留資格の問題で、義援金がもらえない、見舞金がもらえないという制度的な差別の問題もありました。こういうことで、生活の再建も遅れてしまう。例えば、日本語のわかる日本国

籍の私が被災するのと、日本語がわからない外国人が被災するのでは、受けられる支援が違い、生活の再建に差が出てきます。

これらは、考えてみれば、日常的にこれまでもあった問題が、際立って見えただけです。外国人は、ずっとそういう状況の中で、国際都市神戸で暮らしていたわけです。

相談と情報提供と翻訳の「輪」

そのような状況のもとで、全国から救援・支援の手が差し伸べられ、まずは相談活動が始まり、組織ができていきました。そこに非常に困難な状況に陥っている人たちがいて、その相談にのる活動が起こります。ひとりふたりのベトナム人が困っていることは、他のベトナム人も困っているかもしれない。相談活動の中から発信すべきものが見えてきて、情報提供を行っていきました。独自にラジオ放送を始めてみたり、ニュースペーパーを配ったりして、仕組みをつくっていったのです。

ただし、多言語の情報提供というのは、ラジオで一方向的に流したり、ニュースペーパーを配ってるだけでは、役に立ちません。例えば、ブラジル人にポルトガル語の情報紙を渡して、「義援金は区役所に行ってもらえます。被災した人に一律10万円です。」という情報を読んでもらっても、どうやって区役所に行

▶ NGO活動研修派遣事業・研修生募集 ◀

県内で活躍する若手NGOスタッフを、先進的な取り組みがなされている米国またはドイツのNGOに、神奈川県が助成して派遣します。

対象 県内に在住、在学または在勤し、2000年4月1日現在20歳以上30歳以下の方で、主に国際交流や国際協力を行っているNGOに所属して県内で活動し、研修を円滑に行う語学力がある方。

募集人員 1名

派遣期間 2ヶ月以上3ヶ月以内(原則として9月～11月)

派遣先 米国・メリーランド州またはドイツ・バーデンビュルテンベルク州のNGO(派遣先は県が指定する候補団体の中から選択)

助成内容 往復の渡航費、現地生活費などの1/2以内(限度額60万円)

応募方法 県の各地区行政センター、かながわ県民活動サポートセンター、県国際課で配布中の申込書に記入の上、持参か郵送で5月15日(月)までに国際課へ提出

問合せ 神奈川県県民部国際課 045・210・3755

前回研修生からのメッセージ

小西久美子さん 所属NGO : セルフ・アクション・ネットワーク(横浜市保土ヶ谷区)
派遣先 : メリーランドNPO協会(アメリカ・メリーランド州)
派遣期間 : 1999年10月4日～12月22日



このNGO研修の特徴は、事前に自分で派遣先を選ぶこと、自分で研修内容について交渉できること、そして期間が3ヶ月と長いことです。

実際にアメリカに行くと、NPOに関する目新しい情報が溢れていて、あっという間に期間は過ぎてしまいます。しかしこの研修では、これら事前準備を通して自分の学びたいことが

明確になっているので、その宝の山から自分の目標にあった情報やスキルを選別でき、とても充実しています。あなたも確実に何かをつかんで帰ってくることでしょ!ぜひ応募してください。一人でも多くのNPOに関心のある方に参加して欲しいと思います。NPOの未来、自分の未来を開拓していきましょう。

つたらしいのか、区役所に行ってポルトガル語が通じるのか、その後の行動のフォローがないと。情報だけではなく、相談活動とセットになっていないと生きたものにならない。

あとは、情報を発信する側にベトナム人なりブラジル人なり外国人当事者の参加がないと、情報の中身の焦点がボケますね。一方的に行政から来る情報を、これはベトナム人に必要だろうから、ブラジル人に必要だろうという流すというのは、最初はやむを得ない場合もあるだろうけれど、空を切るような話になってしまう可能性があります。

情報を多言語で提供していくには、翻訳通訳ボランティアの存在が欠かせないですが、いきなり通訳者や翻訳者をいっぱい募っても、活動の場がないと、「せっかく関わろうと思ったのに全然仕事がないじゃないか」となってしまう。他の活動にもすべて声をかけて、多言語の情報提供だけではなく、新しい社会をつくっていく活動に参加しているんだということもわかってもらい、その一端を翻訳ボランティアとして担っているのだと感じてもらおうのが大事だと思います。

このように阪神・淡路大震災からは学んだことがいろいろあります。相談活動があって、相談活動の中から必要だと思った情報をネットワークの中で翻訳して、それをいく

つかの媒体で情報提供し、情報提供した相手からの相談を受ける窓口がある、という「人とグループの輪」が神戸にはできました。この輪をしっかりとつくとおけば、災害のときにあたふたせずに、顔の見える関係の中で外国人への情報提供をしていけると思っています。

神戸から台湾への協力

昨年の秋に台湾で地震があった時、私たちの仲間が、神戸から台湾の被災外国人への情報提供のプロジェクトを立ち上げました。台湾にも当然言葉のわからない外国人がいて、神戸と同じように被災したわけです。

台湾の政府とか自治体は、さまざまな情報を、被災者に対してニュースや紙やラジオで送るわけですが、神戸と同じように、そのほとんどが中国語だけで提供されていて、そこに生活する人たちのベトナム語とかタガログ語とかインドネシア語での情報提供というのは、皆無でした。その上、台湾には、外国人被災者に情報を提供できる通訳翻訳ボランティアの人たちが、非常に少なかった。そこで、これを阪神地域のネットワークで対応しようということになりました。

台湾の言葉で書かれた「義援金はいくら」とか「仮設住宅に住むにはどうしたらいい

ご来場ありがとうございました あーすフェスタかながわ2000

3月4日・5日の2日間にわたり、あーすぶらざにおいて、「あーすフェスタかながわ2000」が開催されました。

「みんなで育てる多文化共生」をテーマに、神奈川県や県内の民族団体を含む5つの団体を中心となり、多くの外国籍県民やNGOの協力を得て企画・運営を行い、実施されました。

当日は、全国各地の外国籍住民会議委員を中心に、外国籍住民の直面する課題について協議し、多文化共生に向けたアピールを行った「拡大外国籍住民会議」をはじめ、小・中学生、外国人学校の生徒たちが「子ども記者」として、外国籍県民の生活や文化を取材し、その結果を発表した「子ども記者発表」など、さまざまなイベントが行われました。『月はどっちに出ている』の崔洋一監督をゲストにお招きしての映画祭特別トークショーなども人気を集めました。

次回の日程は未定ですが、「多文化共生」のメッセージを伝えるためより充実した企画にしたいと考えています。ご期待ください!

か」という文章を、FAXでこっちに送ってもらって、阪神地域のネットワークでそれを翻訳して台湾に送り返し、台湾のセンターでそれを印刷して、紙の情報としてこの人たちに配ることができました。

ラジオは、台湾の地震情報を、神戸の「FMわいわい」で6言語で放送し、その音を台湾の小さなラジオ局にインターネットで同時中継し、台湾でラジオ放送しようとしたのですが、音の質の問題などであまり功を奏さなかったんです。でも、ホームページに音をしっかり置いてさおけば、ホームページを開けて、例えば、台湾地震のニュースのベトナム語といところをグックしたら、日本でも台湾でも、いつでも時間を問わずに聞くことができます。それをラジオ局の人が、パソコンからテープなどに録音して、ラジオで流すことができる。

こういう仕組みを使えば、遠隔地であっても、多言語での情報提供を受けることができます。もし、神戸でまた災害がどかんと起きて、私たちがもやられてしまったら、先程の「輪」も役に立たないわけです。いくつもの地域に「輪」ができて、その「輪」と「輪」がしっかりとつながっていけばと考えています。

当協会が3月14日に行った「災害時広域支援通訳・翻訳/広域活動ボランティア研修会」で日比野さんが行った講演から一部を掲載

ことばと文化セミナー2000

ことばを学ぶ「中南米のスペイン語入門」

amigo(アミーゴ)、marinos(マリノス)、gracias(グラシアス)...。そのまま読んで、通じてしまうのがスペイン語のいいところ。クラスは、「楽しく学ぶ」ことをモットーに、日本生活の長いボリビア人の角田マリ講師が担当します。

あなたのまわりにいるペルーやボリビア出身のラティーノたちとスペイン語で話してみませんか。

対象 スペイン語を学習したことがない人

とき 6月16日～9月1日(全12回) 毎週金曜日 18:30～20:00

ところ あーすぶらざ1階・研修室B(JR根岸線「本郷台」駅前)

定員 12名(先着申込順)

*希望者が7名に満たない場合は、開催を中止し、納入した費用を払い戻しいたします。

申込み 電話で仮予約の上、申込書と受講料を協会窓口までお持ちください。

費用 ・受講料 26,250円(消費税込み) ・協会年会費 3,000円(会員の方は不要)

文化を学ぶ「かながわの中のラテンアメリカ」

①「どうして日本にペルー人が暮らしているのか？」

沖縄生まれ、ペルー育ち、そして現在川崎で在日ペルー人を対象にした相談活動を行っている棚原恵子さんが、日本から中南米への移民、日本へのUターン移民、ペルー人等の定住化が進む中での問題などを話します。

とき 6月17日(土) 14:00～16:00

講師 棚原恵子(滞日外国人と連帯する会ラテンアメリカデスク)

ところ あーすぶらざ3階・企画展示室

定員 30名(申込み先着順)

②「かながわのラテンアメリカ社会を探検する」

かながわに暮らすラテンアメリカの人々はどうのような生活を送っているのでしょうか。島本篤エルネストさんの案内でラテンアメリカの人々の生活に触れ、文化についても学びます。

とき 6月24日(土) 14:00～16:00

講師 島本篤エルネスト

(県立寛政高校教諭、ラテンアメリカメーリングリスト主宰)

ところ あーすぶらざ1階・ワークショップルーム

定員 30名(申込み先着順)

③「南米から鶴見に伝える味(料理講座)」

ボリビアで生まれ、アルゼンチンでも暮らし、今は横浜の鶴見で南米料理のお店を開いている仲真明美さんから南米料理を習い、味わいながらお話を伺います。

とき 7月2日(日) 10:30～14:00

講師 仲真明美(南米・沖縄料理の店「アミーゴ」)

ところ あーすぶらざ1階・料理室

定員 20名(申込み先着順)

参加費 ①、②は各回500円、③は800円(3回通して申込み 1,500円)

申込み・問合せ 企画情報課

神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切に「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

あなたも会員になりませんか？

協会の活動を支える会員を募集しています。

会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。

会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。

会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

年会費：個人 3,000円から
団体 10,000円から

*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営する地球市民かながわプラザ内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00～20:00
(土曜・日曜日・祝日 9:00～17:00)
映像ライブラリー 9:00～17:00
*月曜日は休館日です。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

各事業に関するお問い合わせは、
(財)神奈川県国際交流協会
(☎045・896・2626)

までどうぞ。

Hello
friends

2000年5月1日発行
第214号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ヶ谷一丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
☎045-896-2626 FAX 045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: hello@k-i-a.or.jp

デザイン (株)エー・シー・ピー
印刷 (株)野毛印刷社

3月にオーストラリア・シドニーへの派遣事業を行った。今回の旅のテーマは「多文化教育」と「子どもの権利」。移民国家で、移民に対する教育がどのように保障され、異なる文化を認め合う教育が行われているのかを学ぶのが多くの参加者のねらいだった。

オーストラリアでは多文化教育が政策で定められており、英語学習の集中校の設置、母語学習の保障など移民が豪社会で可能性をのびせる制度が充実している。

制度的な部分でも学ぶことが多かったが、教育の分野で活躍する人々と出会い、多様性を認め合える社会を作っていくという彼らの意気込みを感じることができた。

最初に訪れたカブラマタという地域は、住民の七割近くが移民出身という特徴がある。地域で活躍する専門家は、移民出身者も多い。両方の言語と文化を理解し、2つの世界の橋渡し役を担うことができる存在は重要だ。

多文化主義が盛んである豪社会は、一方で薬物中毒や若者のホームレス化など深刻な問題も抱えている。しかし、ただ禁止したり制裁を加えるのではなく、教育・予防で問題と向き合おうというやり方にも、受け入れるという姿勢を感じた。

今回の旅には、県立高校に通うベトナム出身の高校生も参加した。大学進学を控える彼女、そして日本の学校に通う多文化の子どもの可能性を伸ばし、文化の多様性を尊重し合えるためには、何ができるか考えていきたい。

(管理・国連課 富本潤子)

*キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿、文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。次回の機関紙の発行は7月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)